

教育体験 in 芸北

平成 25 年 8 月 5 日～8 月 7 日の 3 日間、県立広島大学国際文化学科の学生が広島県立加計高等学校芸北分校のサマーセミナーで講師を務めました。

このセミナーは、北広島町と周辺の高校生・中学生が集まり、仲間づくりや学力向上、地域の担い手としての意識向上などを目的として行われるもので、本学は高大連携の取組の一環として平成 21 年度から学生を派遣しています。

今年度は、芸北分校のほか、広島県立加計高等学校、北広島町立芸北中学校から 110 人の生徒が集まりました。

本学からは教職志望の 4 年生が参加して社会の授業を担当したほか、講話、進路・学習指導などを行い、地域活性化座談会にも参加しました。以下は学生の感想です。

8 月の真夏であることを疑いたくなる涼しい環境にも驚きを覚えました。最も印象に残っているのは、生徒たちのまじめさ・素直さです。私のような学生が行う授業や講話に対して、生徒がどのような反応を見せるのか不安がありましたが、どの生徒も真剣な顔つきで話を聞き、しっかりと考えて積極的に発言し、授業に参加してくれたので、私自身も一生懸命になり指導に取り組みました。



芸北分校の特徴は、単に少人数指導を行っているというだけでなく、「生徒を強く鍛える」という視点で教育を行っていることです。具体的には、生徒は先生方や私達の姿を見ると必ず立ち止まり、大きな声で挨拶するといった挨拶指導の徹底化、物怖じしない生徒を育成するためにステージでパフォーマンスする機会を設けることが挙げられます。そして、その成果は私も実感することができました。毎授業後、生徒に感想メモを書いてもらったのですが、ほとんどの生徒が用紙いっぱい自分の思いを記入していたのです。言語教育の重要性が盛んになっている中で、生徒が自分の考えをきちんと伝えることができるのは、芸北分校の教育が確実に浸透しているからです。都市部の学校ではなかなか見られない独自の教育が、生徒自身そして地域から絶大な信頼を得ており、

「芸北ブランド」を確立しています。

芸北分校には神楽部があり、運動部などの第一クラブ活動が終わった午後6時過ぎから午後8時まで、有志による第二クラブ活動として毎日練習しています。実際の演技を見せていただいたのですが、生徒は演じる側も見る側も神楽に誇りを持っていて、最終日に行われた芸北の課題とその解決方法を考える地域活性化座談会でも、芸北地域の活性化に神楽はどのように活用できるかを真剣に考えていました。しかし、神楽などの文化や豊かな自然は生徒にとっては当たり前であり、芸北の強みになるとは感じていません。私たち学生は、今回のような交流の中で芸北のすばらしさを感じるだけでなく、しっかりと伝えていかなければならないと思いました。

セミナーは、教育や教師という職業について考え直すことができたと同時に、芸北地域のすばらしさと今後の課題も学ぶことができ、3日間という短い期間ながらも内容の濃いものとなりました。